

溝上 慎一の教育論(動画チャンネル) No412

(新著の紹介)

改めてアイデンティティとは何かー最先端の研究知見より 畑野快先生(大阪公立大学准教授)

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

<https://smizok.com/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長(2020-2021年)。京都大学博士(教育学)。

*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の研究委託を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

(ご紹介)

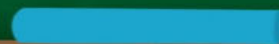
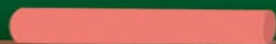


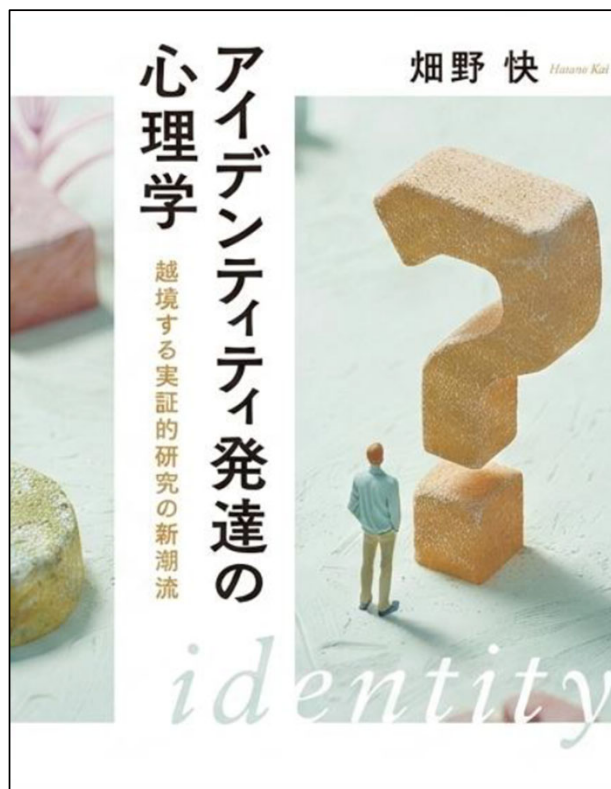
畑野 快
はたの かい

大阪公立大学・国際基幹教育機構／現代システム
科学研究科・准教授

京都大学大学院教育学研究科博士後期課程修了。博士
(教育学)。学振PD・大阪府立大学特認助教・同大
学准教授を経て2022年4月より現職。
2023年より学長特別補佐。

単著『アイデンティティ発達の心理学: 越境する実証
的研究の新潮流』(ちとせプレス, 2026), 共著
『心のなかはどうなっているの? 高校生の「なぜ」
に答える心理学』(福村出版, 2023) など

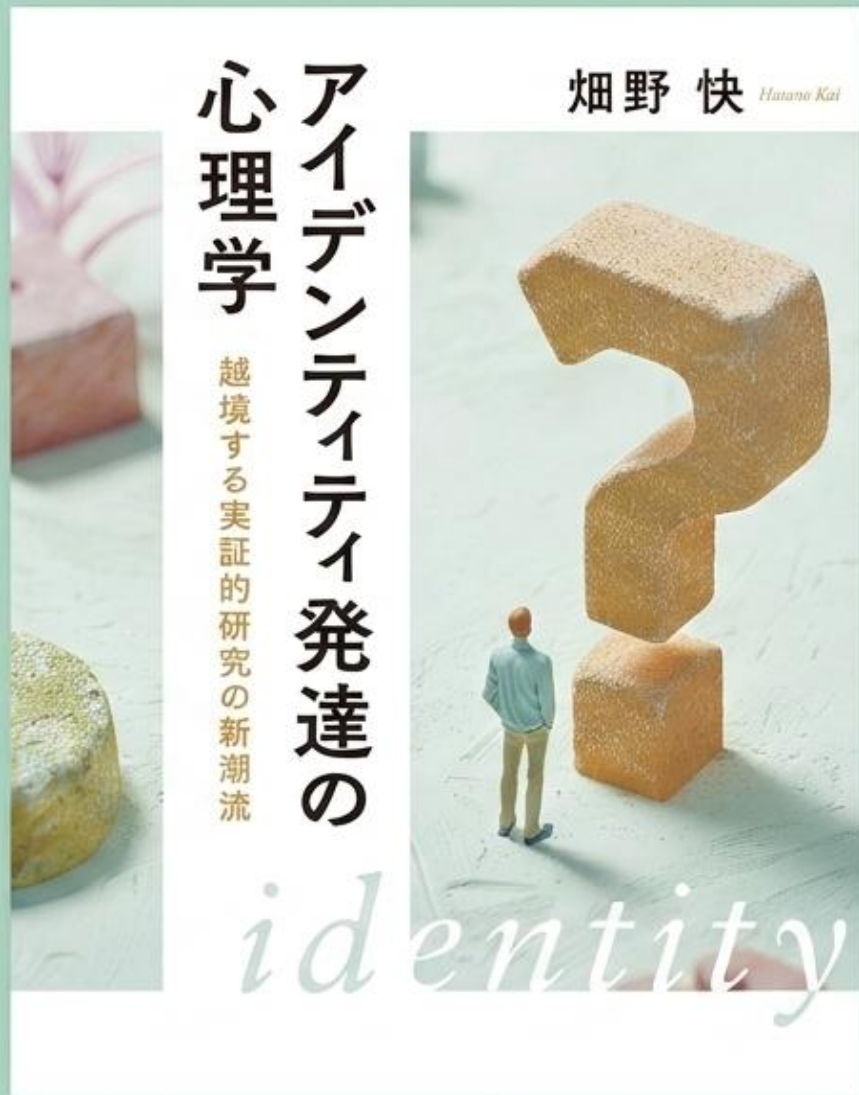




畑野快 (2026). アイデンティティ発達の心理学 —越境する実証的研究の新潮流— ちとせプレス

- 第1章 自己、アイデンティティ
- 第2章 アイデンティティの発達の視座
- 第3章 アイデンティティの感覚とアイデンティティ・ステータス
——アイデンティティ研究のモデルと測定(1)
- 第4章 五次元モデルと三アイデンティティ・プロセスモデル
——アイデンティティ研究のモデルと測定(2)
- 第5章 世界各国におけるアイデンティティ発達の様相
- 第6章 中学から大学にかけてのアイデンティティ発達
——日本人青年・若年成人のアイデンティティ発達の様相(1)
- 第7章 職業選択、雇用形態とアイデンティティ発達
——日本人青年・若年成人のアイデンティティ発達の様相(2)
- 第8章 アイデンティティ発達に関わる心理的要因
——Big Five特性、親子関係、精神的健康
- 第9章 アイデンティティの意識、感覚のメカニズムに迫る
- 第10章 多様性と実践性から捉えるアイデンティティ発達研究の展開

それではご覧ください



アイデンティティ 発達の心理学

越境する実証的研究の新潮流

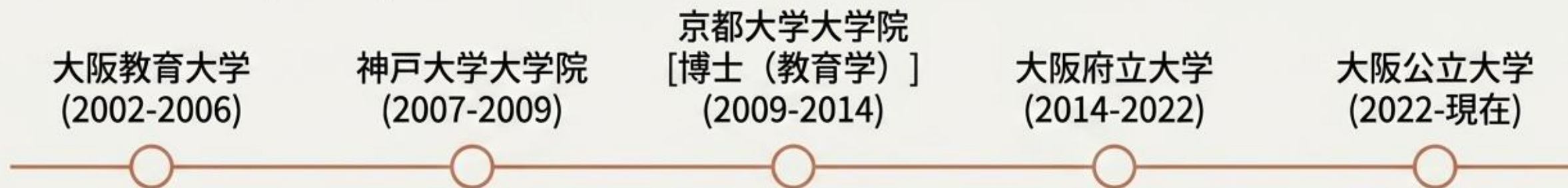
畑野 快
ちとせプレス

畑野 快

大阪公立大学 国際基幹教育機構／現代システム科学研究科／学長特別補佐 准教授



Academic Trajectory



研究の重点

アイデンティティ

青年期・成人期

主体的な学習

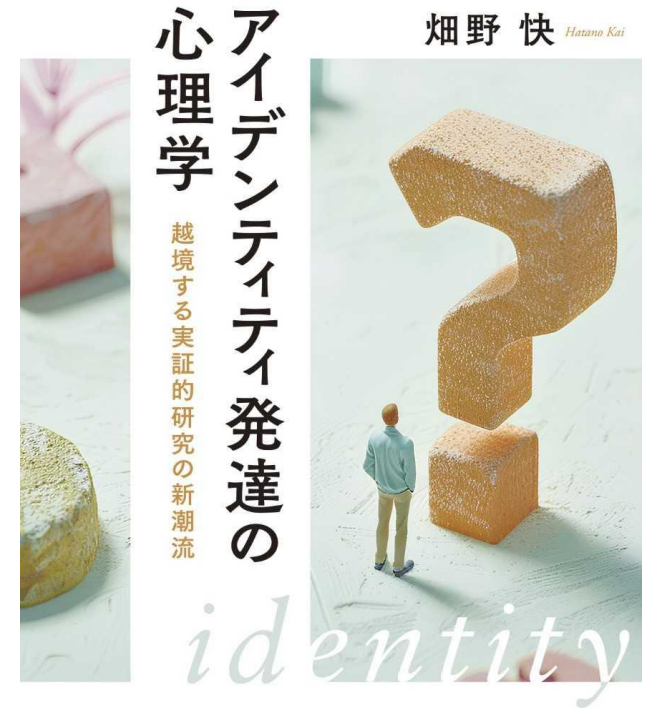
Well-being

受賞歴

2016年 大学教育学会奨励賞
2023年 発達心理学会国際奨励賞
2023年 日本心理学会国際賞・奨励賞
2023年 大阪公立大学若手研究者奨励賞

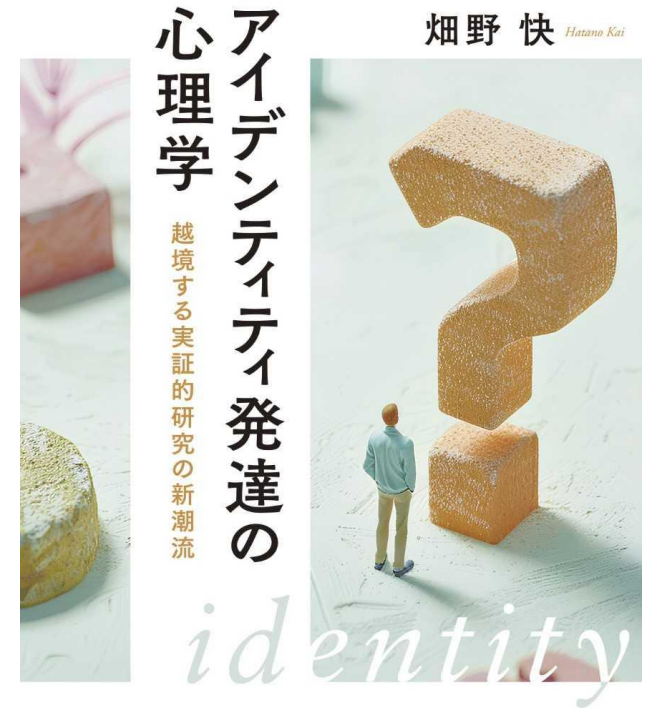
本書のポイント

- 1 アイデンティティ発達の**学術的整理**
- 2 **エビデンス**に基づくアイデンティティ発達の理解
- 3 **国際的研究動向**の把握



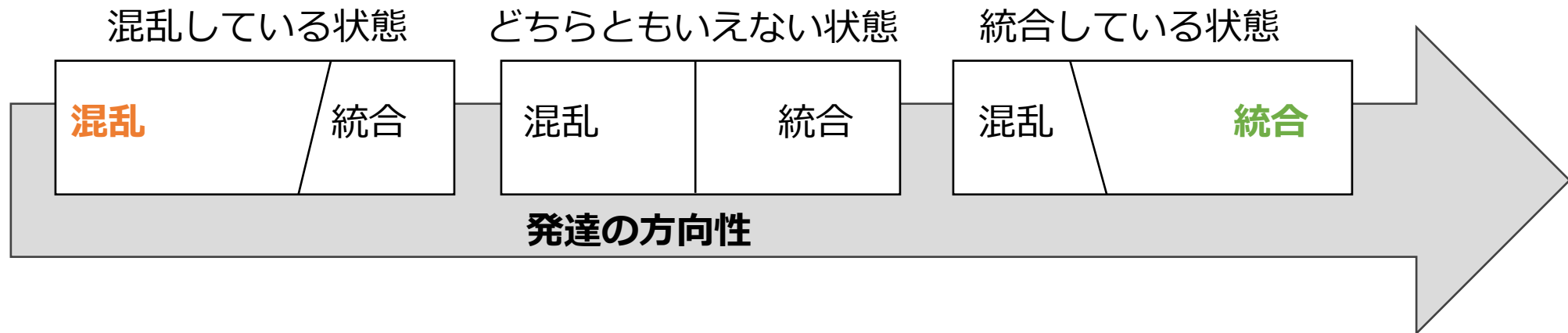
第1－2章：概念の再構築と発達の視点

- アイデンティティの**定義**
- アイデンティティを軸に、**Big Five**などの性格特性研究や**自己**、**ナラティブ**研究を統合的に整理

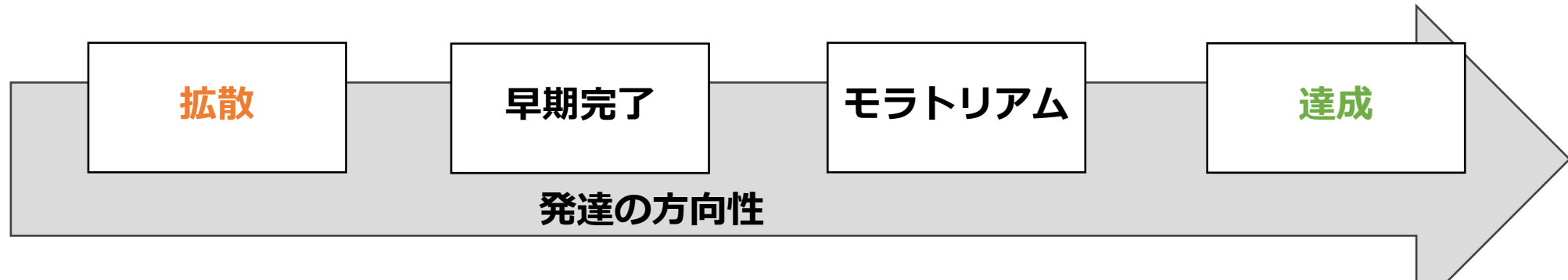


第3－4章：アイデンティティ発達の実証的モデル

- 「アイデンティティの**感覚**（**混乱**から**統合**へ）」

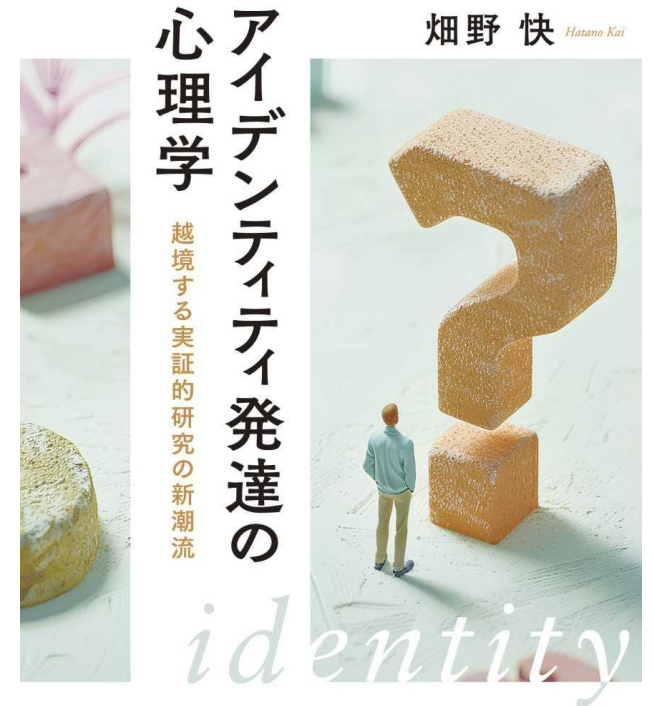


- 「アイデンティティ・**ステイタス**（**拡散**から**達成**へ）」

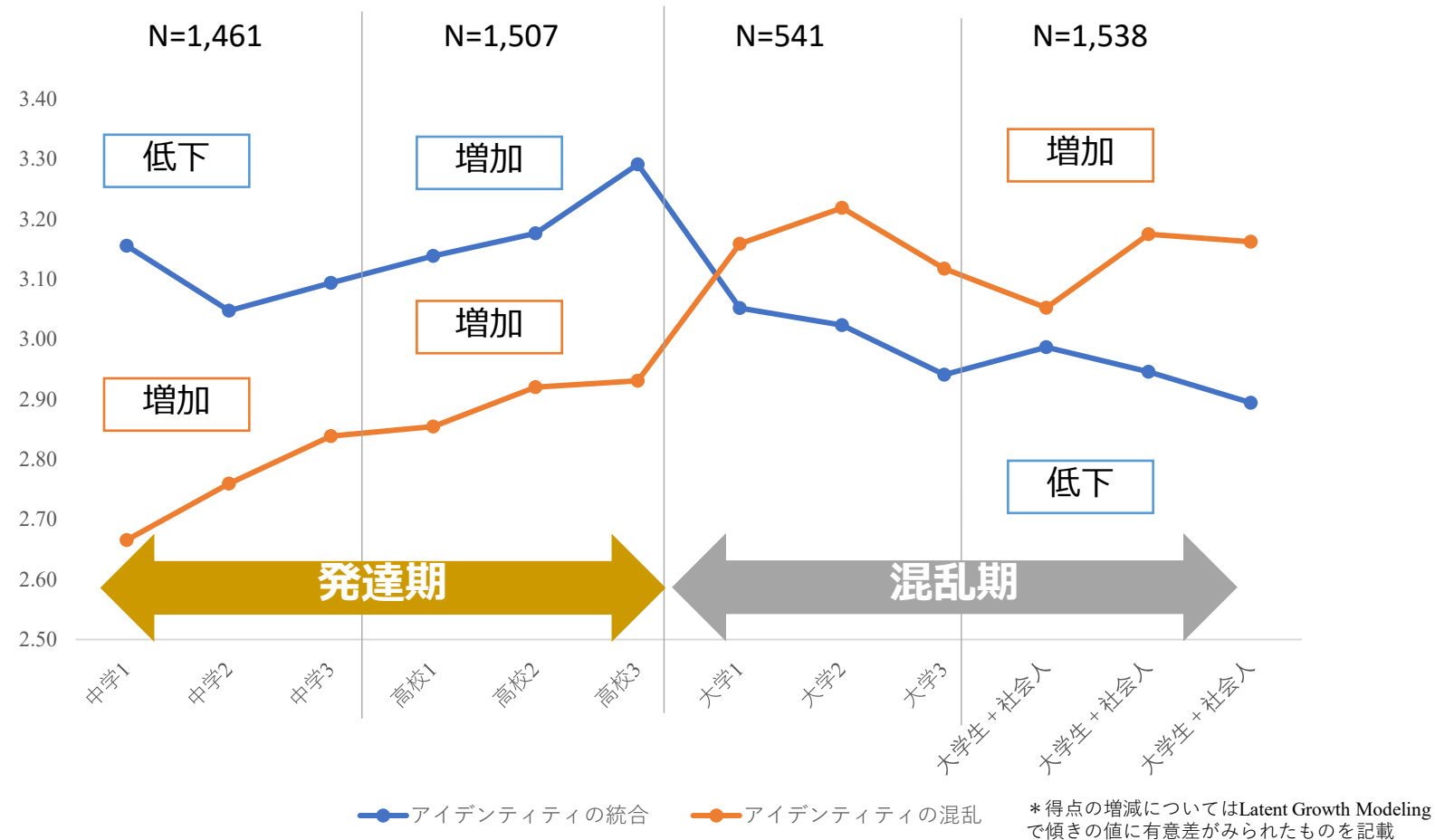


第5－7章：青年、若年成人のアイデンティティ発達

- **国際的研究**：欧米を中心とした国際的なアイデンティティ研究の枠組みと実証データを提示
- **日本人の特徴**：収集された**実証データに基づき**、青年・若年成人のアイデンティティ発達を提示



日本人の12歳前後から24歳前後の感覚の変化（LGM）

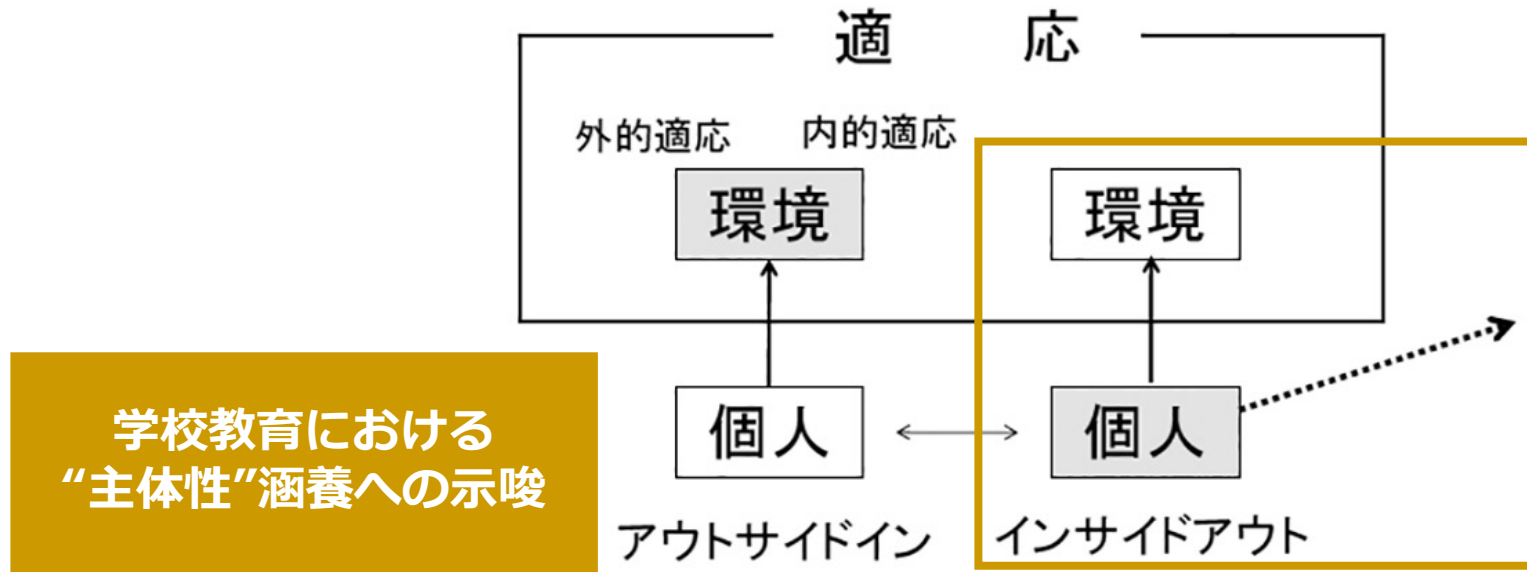


中学から高校にかけては統合が優勢だが**大学以降は混乱が優勢**になり、その傾向は**社会人になっても続く**（オランダと逆）

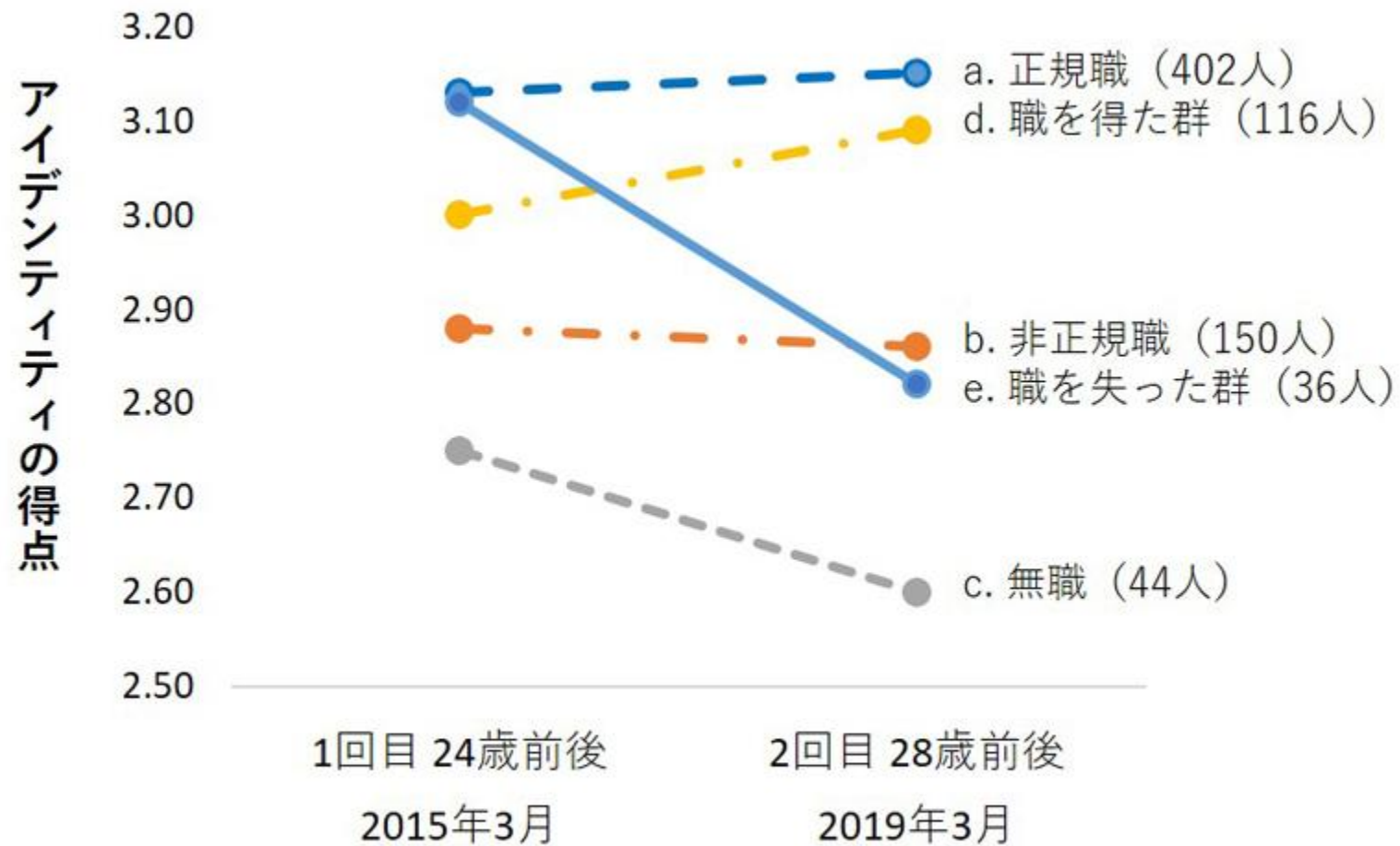
日本人のアイデンティティの混乱

- 18歳以降にアイデンティティの混乱が顕著→成人形成期（emerging adulthood ; Arnett, 2000）を支持
- **個人主義**と**集団主義**の中で生き方に苦悩する日本人（Sugimura, 2020）

1990年頃を境に変わる社会・進むライフコースの個人化
individualization



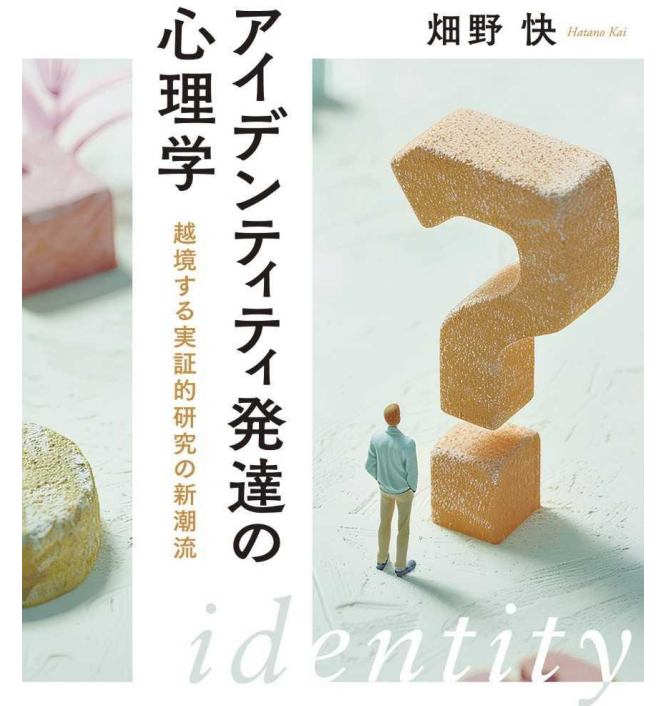
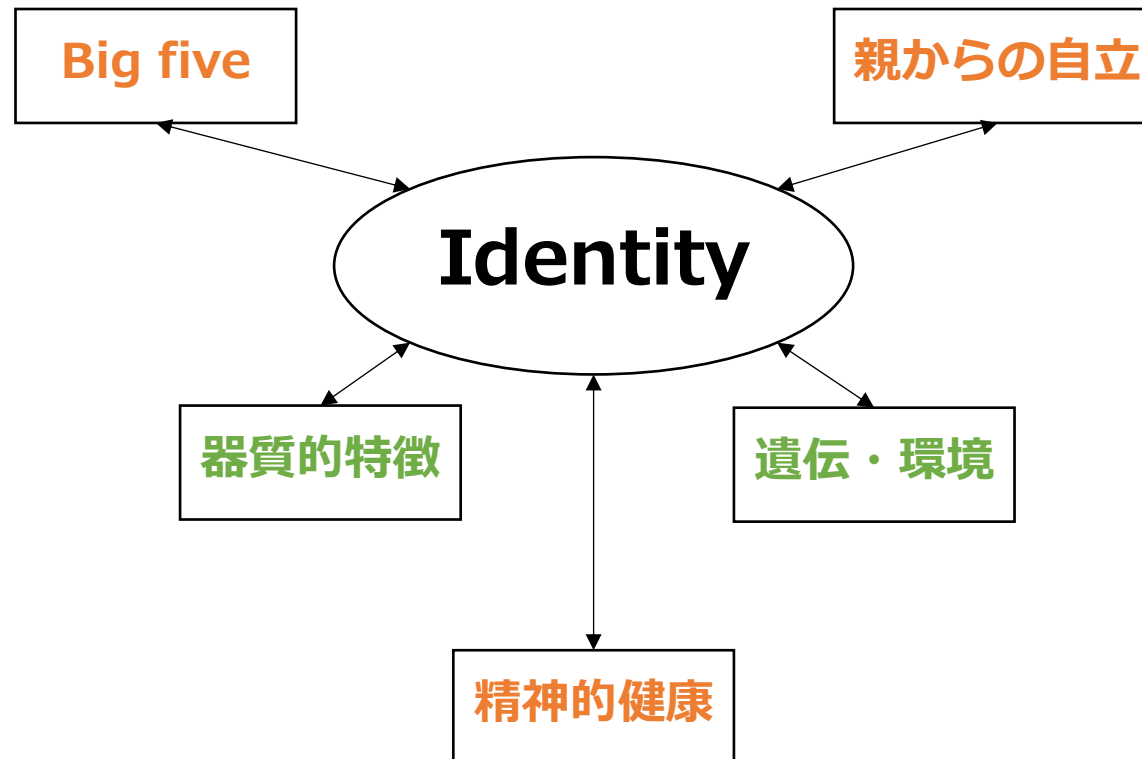
インサイドアウトの生き方（溝上, 2010）に苦悩する**タイミング**が
18－25歳前後？



安定して正規職の成人は統合の得点が高い
職を得るよりも職を失うことの方がアイデンティティへの影響が強い
→雇用形態によってアイデンティティは変わる

第8－9章：個人差を生む要因の多角的な分析

- アイデンティティ発達の個人差に影響を与える**諸要因**を分析





アイデンティティと遺伝・環境の影響

	分散要因の推定値【95%信頼区間】		
	遺伝	共有環境	非共有環境
統合	.35 [.29-.58]	—	.65 [.42-.71]
混乱	.31 [.10-.42]	—	.69 [.58-.90]

遺伝要因 (Additive genetic effects ; A)

両親から受け継がれた遺伝的影響。一卵性双生児は100%、二卵性は約50%を共有。

共有環境要因 (Common / Shared environment ; C)

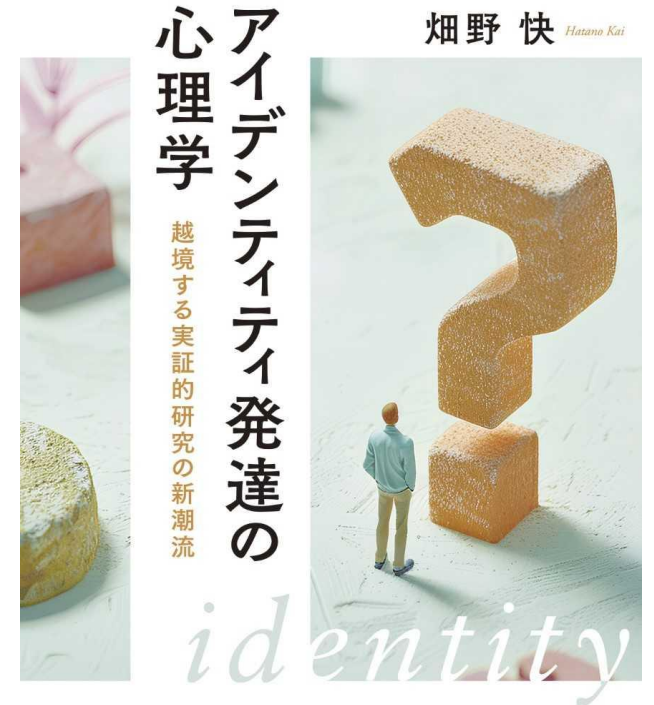
兄弟姉妹が共通して経験する環境（家庭の教育方針、家庭の経済状況など）。

非共有環境要因 (Nonshared / Unique environment ; E)

個人に固有の経験（友人関係、学校での出来事など）と測定誤差も含む。

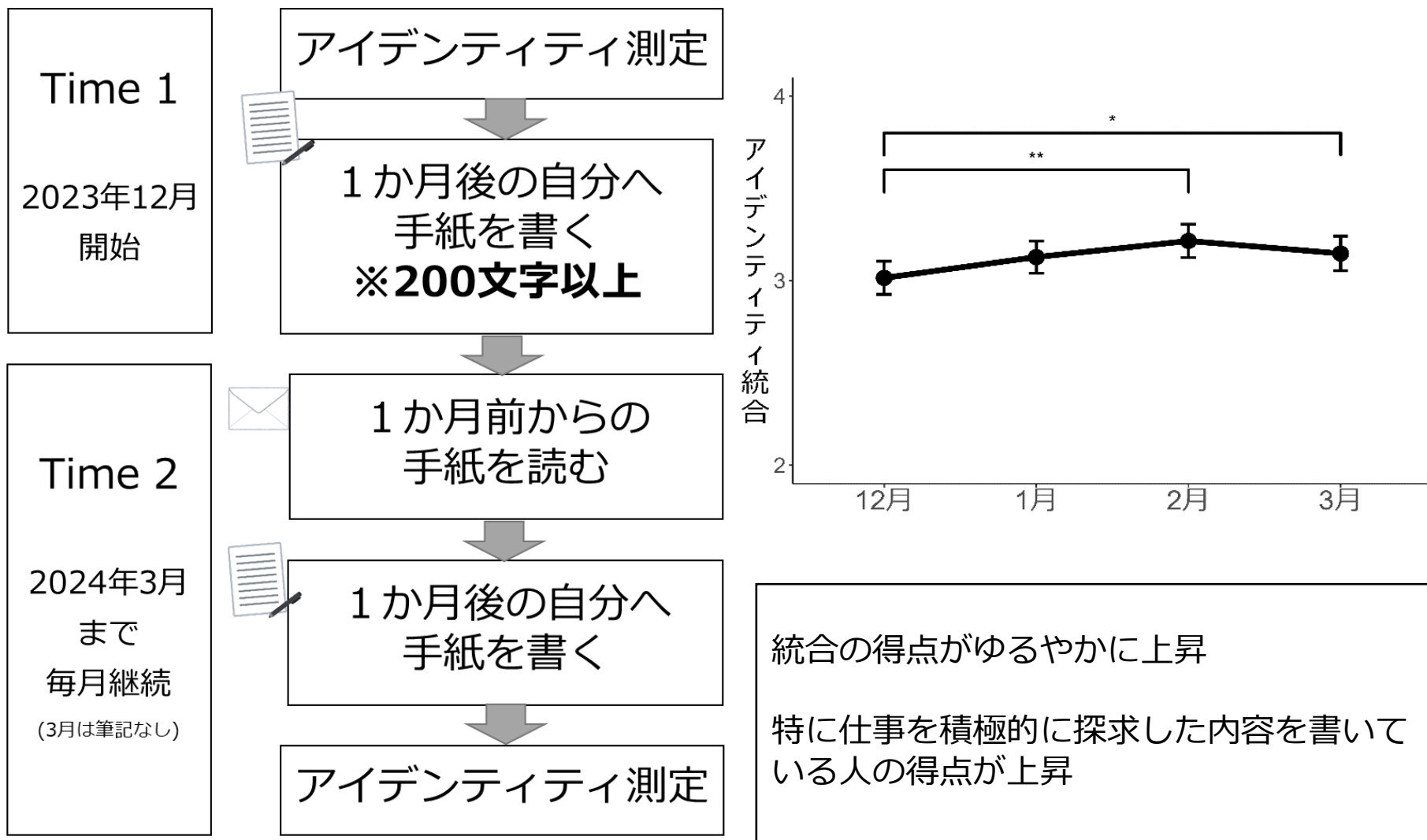
第10章：研究の展開と社会的な実践

- **ナラティブ**への展開：人生を物語として構成する「ナラティブ・アイデンティティ」など、研究の多様な広がりを紹介
- **介入と支援**：理論を実社会に応用した介入研究や、アイデンティティ発達を支えるための具体的な支援法を考察





アイデンティティの支援に着目した手紙往還研究



本書がもたらす「4つの解像度」

内面の解像度: 自己の多角的理解

「自己」「性格」「アイデンティティ」の違いを明確に切り分け、自身の内面を捉える視座を高める。

時間的解像度: 発達プロセスの客観視

アイデンティティを生涯続く過程として捉え、現在の葛藤を「成長の一環」として整理する。

空間的解像度: 社会構造との相対化

個人の悩みを、国際的なデータや日本固有の社会背景（就活・雇用など）と紐づけて客観視する。

実践的解像度: 支援のための知見

親子関係や性格特性の影響を理解し、自己理解だけでなく、教育や他者支援に直結する知識を蓄積する。

大学生・大学院生、そして研究者を志す皆さんへ

・迷っている今こそ

漠然とした自分への不安に直面している時期にこそ、主観を離れ、客観的なデータで「自己」を見つめ直す本書を手にとってください。

・研究の道標として

本書で採用されている緻密な研究デザインや手法は、自身の研究を志す方へのガイドとなります。

・独自性の発見

他の自己啓発書や学術書と読み比べることで、本書の実証心理学としての独自性が理解できます。

